

## イノゲート大阪

駅開業150年の時を継ぎ、街を繋ぐ大阪駅ビル

## 建築物概要

- 所在地：大阪市北区大深町、梅田3丁目
- 建築主：西日本旅客鉄道株式会社、  
JR西日本ステーションシティ株式会社
- 設計者：西日本旅客鉄道株式会社一級建築士事務所、  
株式会社大林組一級建築士事務所
- 用途：事務所、飲食店舗
- 敷地面積：3,836㎡
- 建築面積：3,703㎡
- 延べ面積：60,411㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上23階/地下1階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値1.6
- 重点評価：CO<sub>2</sub>削減3.0/みどり・ヒートアイランド対策3.0/  
建物の断熱性能4.0/エネルギー削減2.0/自然エネルギー



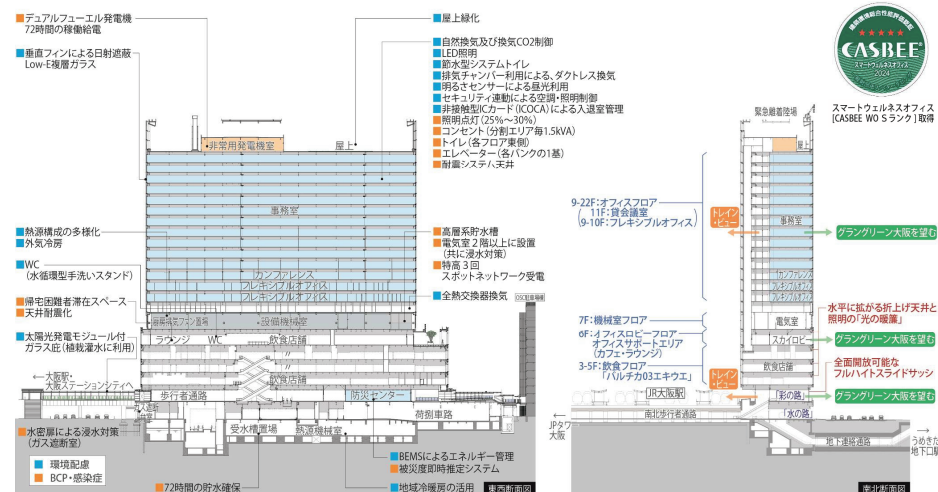
【立地、周边环境】

JR大阪駅を内包する大阪ステーションシティの新たな駅ビルとして、鉄道公共の一部を解体し増築した。JR大阪駅の新たな改札（西口改札）の供用開始、さらにはうめきた2期「グラングリーン大阪」の先行まちびらきを受けて、西へ拡張する大阪駅の玄関口と新しい街の回遊拠点の役割を担う。

【総合的なコンセプト】

- ・ 鉄道軌道沿いの東西160m、南北17～30mの細長敷地を最大活用した超薄型高層ビルである。
- ・ 鉄道側(南側)にガラスシャフトのEVコアを集約し、ガラスカーテンウォールで覆われた貸床を公園側(北側)に最大化することで、敷地南北の恒久的な空地を室内に取り込み、新たな大飯極道の景観と環境を全面に享受する。
- ・ 建築物の負荷低減に加え、BCPや感染症対策など働く人の環境価値の向上により、スマートウェルネスオフィス〔CASBEE WO Sランク〕取得。
- ・ 駅の玄関口となる1・2階の歩行者通路はアートや移動可能な家具が備えられ、特に2階レベルでは既存建屋と緑豊かな歩行者通路で接続し、大飯駅からグラングリーン大阪までを繋ぐ回遊拠点としてさらに貢献する。

## 建物断面構成図



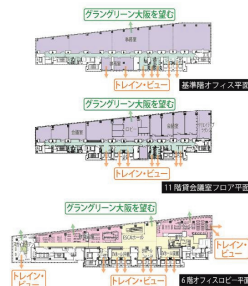
## 環境配慮事項とねらい

## 環境負荷低減する外観計画



- ・北、東、西面の高層部は三角形の日射遮蔽ルバーにより、西日を遮りながら北側のラウンジへの眺望を最大限確保。
- ・周囲の高層ビルとの景観に調和しつつも、北東角は斜辺に切り取った形状のガラスファサードと夜間の照明により駅前超高層ビルのランドマークとして特徴化。
- ・低層部は大阪駅のゲートと駅名サインを掲げることで、駅の玄関口であることの認識しやすくする。
- ・鉄道線はスチール・EV とし、EV シャフトを利用したダブルスチールのガラスファサードにより鉄道騒音と熱負荷の抑制とともに、外部への縦装線の視覚化、内部からは列車のある景色を望める外装設計。

## 多様化するオフィスニーズに対応する執務室フロアの計画



- ・ オフィス貸室の意面からの興行きの深さを変化させる細長の自前の基準階平面は、多様なニーズに利用に応え、北側からの穏やかに安定した採光と都市公園への景観を享受。
- ・ オフィス低層フロアには貸し会議室やコワーキングスペースを備えることで、一般フロアのオフィス入居者を含めフロアを誇いだ連携利用を誘発し、駅直上のオフィスビルとしてワーカーの拠点となる場所を目指す。
- ・ 6F ラウンジにはオフィスシェアスペースや会議室、サードスペースを備え、ワーカーと来訪者の交流の場として。

ウェルネス・オフィスを実現するオフィス階共用部



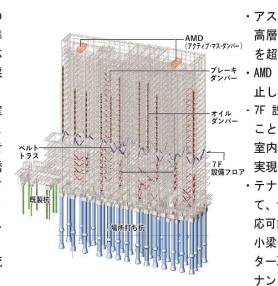
- ・6F オフィスラウンジには、カフェと屋外の緑のあるスカイテラスを設け、屋外のフレッシュ空間を設けている。
- ・オフィス基準階の共用部は、木仕上げの壁のゆとりある通路スペースと共に、南側にはダブルスリングガラスファードによる自然採光。各フロアに広いリフレッシュスペースを備え、ワーカの居住環境の向上に貢献。
- ・オフィス各階に防災備蓄倉庫を確保。

街に回遊拠点を提供する2階レベルの計画



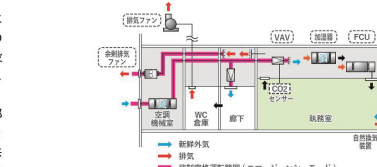
- ・屋内外貫通する大阪駅からグラングリーン大阪へと繋がる都市計画広場（交通広場）を2階に内包。
- ・都市インフラとしての動線機能に加え、ビルの共用部としても豊かな移動・滞留空間を実現。
- ・北側（グラングリーン大阪側）に全面開放する可動のフルハイトサッシにより都市公園側と一体化する開放空間に変貌。

## オフィスの居住環境を向上させる構造計画



- ・ アスペクト比8を超える超スレンダーな高層ビルでありながら、建築基準法基準を超える高い耐震性を確保する。
- ・ AMD 制御装置により強風時の風压を抑制しオフィスへの居住環境向上に寄与。
- ・ 7F 設備フロアにペルトトラスを設けることで、耐震性向上とともにオフィス室内に柱の無い使いやすい執務空間を実現。
- ・ テナントに応じたフィクシリティとして、サーバ室や機室などの重量物にも対応可能な重荷重 (1t/㎡) エリアや、鉄骨小梁や柱配管迂回用スリーブ・鉄骨・取付用下の先付けにより将来的なテナントの階段段対応可能エリアを確保する。

## 感染症対策と多様性に応える設備計画



- ・設計段階で見舞われたコロナ（COVID-19）の流行を受け、空気の衛生状態の確保を強く求められた。
- ・通常時 Q02 制御により省エネ運転を実現しつつ、非常時には最大 2 回/1 相当まで換気風量を引き上げられる強制換気モード（エマージェンシーモード）と個別加温器を実装。
- ・オフィス PS には給排水配管を設け、各スパンで完結する設備システムとすることで、クリニックを始めとした多様な施設ニーズに柔軟に対応できるオフィス設備システムを構築。

## 市民とオフィスワーカーの帰宅困難者受け入れ計画



- ・浸水被害を回避する2階レベルの回避動線は道路と広場を備えた空間で、屋内外共に利用が可能な、駅前の帰宅困難者受け入れスペースとなる。
- ・6F オフィスラウンジは、オフィスワーカー、施設利用者の帰宅困難者を受け入れる。どちらも災害時に備えた耐震天井と電源供給可能な計画としている。